

2016-2017 おうみ未来塾 14 期生 活動記録

MUSUBI: 結び

長浜：WOOD BB 森・活き・生き・本き 高時 P-8



間伐材で二次製品を開発中

東近江：こたかり倶楽部 P-18



50年空家だった納屋を「茶店+」に改装中

守山：もりもりもりやま P-28



地域の居場所づくりをめざし活動中



P-02 入塾式



P-04 針江



P-04 高島



P-05 あいとうエコプラザ

百年人生時代の地域づくり



北村裕明
おうみ未来塾長

昨年ベストセラーとなった書物に、ロンドン・ビジネススクールのリンダ・グラットン教授とアンドリュー・スコット教授による『ライフ・シフト』(東洋経済新報社)があります。このなかで著者は、百年人生を提唱し、こうした長寿化社会においては、「教育→仕事→引退」という単線型のライフサイクルではなく、人生それぞれの段階で活躍できる、マルチステージライフへの移行が求められ、そのためには生涯学び続けることが大切であると述べています。

百年人生を想定すると、家族や職場だけでなく、地域社会において、それぞれの人生のステージで、ともに語り合う仲間がいて、必要なサービスが提供されることが重要となってきます。それは、学校教育や介護保険のような制度化されたサービスだけでなく、子ども食堂や、農産物の直販所や、カフェのような語り場などの制度化されていないサービスが、必要に応じて地域社会で提供される仕組みをつくり出すことです。

14期の皆さんがその活動を学んだ、米原市大野木地区の地域づくりは、百年人生時代の地域づくりを体現する取組といえると思います。80代前半と70才台後半の3人のリーダーのもとで、大野木長寿村まちづくり会社は、小規模ではありますが、多世代型で多機能型のサービスを、地域の必要に応じて柔軟に造り出しているのです。

第14期卒塾生の皆さんが、百年人生時代の地域づくりに取り組まれることを期待します。

「MUSUBI 結び」

2016年 地域プロデューサーを養成する未来塾に第14期生25名が入塾。

年齢もキャリアも異なる塾生が何回かの講座を学び

3つのグループを編成し活動が始まりました。

そして2017年卒塾。

このレポートはその3グループが

どのような活動をしていたのかという活動記録の報告です。

この3グループはテーマも活動も異なるのですが1冊にまとめられるのか？

色々考えた中で「結び」が共通コンセプトとしてあるのではないかと

バラバラのキャリアを積んだ人達が入塾することで

結びつき

グループ化することでより結びが強まり

活動が始まることで外部の人達との縁が広がった。

と考えると納得のコンセプトではないかと考え

タイトルを「MUSUBI 結び」としました。

14期生のあゆみ

2016年 [基礎実践コース]

- 6/4 入塾式
- 7/2 第1回本講座 彦根
- 7/23-24 第2回本講座 高島合宿
- 8/6 第3回本講座 東近江
- 9/24 第1回サブ講座 守山
- 10/23 第4回本講座 淡海ネットワークセンター
- 10/23 第2回サブ講座 淡海ネットワークセンター
- 11/6 第1回塾生会 東近江
- 11/19 第2回塾生会 長浜
- 11/22 第3回塾成会 大津

11/26 第5回本講座 県民交流センター

12/17 第4回塾生会淡海ネットワークセンター

12/25 第5回塾生会淡海ネットワークセンター

2017年 [成果実践コース]

1/15 第6回塾生会 淡海ネットワークセンター

3/25 第3回サブ講座 米原

2/11 グループ活動目標発表会

6/24 グループ活動中間報告・相談会

10/12 グループ活動臨時相談会

10/17 グループ活動臨時相談会

12/9 成果発表会・卒塾式



「地域の危機は日常にあり」

大災害が多発している。阪神淡路、東北、熊本と、それぞれの地域は大きな被害を受け、復興もままならない。現場に寄り添うきめ細かい持続的な対応が今後も不可欠だ。大災害に対する危機管理も不可欠だが、地域社会には見逃してしまいがちな危機が沢山潜んでいる。不覚にもその危機を見過ごしたために、その後の地域に取り返しのつかない損失を与えてしまうこともある。

愛媛県内子町は町並保存のまちづくりで有名だ。昭和57年に国の指定を受け、町並保存が進んだ。多くの観光客も訪れるようになったとき、耳目を引いたのが隣接する内子座だった。大正5年に地元有志が出資して建てられた歌舞伎座だ。保存するか、壊して駐車場にするか、意見が分かれ、町では住民にアンケート調査を行った。結果は7割近くが、取り壊して駐車場にすることだった。

岡崎昌之

おうみ未来塾アドバイザー
法政大学名誉教授

地元商工会の倉庫として使用され、老朽化も進んでいたのに、住民の判断もうなずける。しかし内子座の内部を調べた町並保存の中核メンバーからは、復元保存し、町並とタイアップした新しい拠点として活用すべきだとの判断がでた。町も7千万円をかけて復元することに決め、昭和60年に完成。翌年にはヨーロッパの町並保存の先進地、ドイツ・バイエルン州ローテンブルクの市長も招いて、全国規模の町並保存シンポジウム「まち・暮らし・歴史」が内子座で開かれた。現在では、子ども狂言、高校生芸能部、英語劇等々の発表会、また20年以上も続く毎年8月の内子座文楽公演も、全国からファンがつめ掛ける。まさに内子町の文化ホールそのものとなっている。駐車場になりかけたあの一瞬こそ、地域の危機だった。日常に潜む危機を見抜く眼力こそ、まちづくりに必要な力量だ。



14期生のみなさんへ

おうみ未来塾14期生の皆さま、卒塾おめでとうございます。この間、共に学び、議論し、悩み動いた塾生、一人ひとり、この時間の中で、どう変わったと感じていますか？いろいろ思い起こすこと甦りますが、でも“地域”と自分を重ね、入り込み、試行錯誤しながら充実感も獲得したと思います。“地域”の魅力に気づき、どれだけ惚れ込み、可能性をつなげる事ができたかどうかは、チームの力、チームメンバー個々の持ち味を引き出したかどうかで、差が出たのでしょう。少なくとも、一人の能力によるのではなく、チームの仲間と共に動く事、自分の内なる能力の見えない部分も発見があったと思います。それが、チームで創り出す、おうみ未来塾“地域”プロデューサーの魅力です。

藤井絢子

おうみ未来塾アドバイザー
NPO 法人
菜の花プロジェクト
ネットワーク代表

森活生き生き本き高時、こたかり倶楽部、もりもりもりやま、いずれのグループもこの2年間で地域プロデューサーのロードマップの入り口に立ったところで、ようやくかすかな感触をつかんだあたりでしょうか。すなわち、卒塾は地域プロデューサーのはじまりにすぎません。活動を開始した当初の1～2年は燃えています、プロデューサーが本物かどうかは、数年後、10年後、地域の方々はどう実践を積み重ねていくか、真の評価はそこで出てくるのだと思います。地域可能性の発見を楽しんでください。



第14期生、ご卒塾おめでとうございます！

突然で恐縮ですが、実は私も、皆様とご一緒に『おうみ未来塾』を卒業することにいたしました！20年近く『おうみ未来塾』に係らせていただき、本当に多くの塾生の皆さんと時間を共有できたことを、心から感謝申し上げます。

「人ってこんなに変わるんだ！」という感動を持つことができたのも、この『おうみ未来塾』でした。それは私にとっても本当にうれしい塾生たちの『変化』でした。もちろんこの『変化』は『成長』そのものです。

基礎を学び、多くの先輩たちの活動実践を自分の目で確かめ、自らもフィールドに入り、さまざまな経験を積み重ねていく中で、当初の不安だった顔から、自信に変わっていった顔、顔、顔…。現場をもち未来への展望を手に入れたその顔こそが、『変化』を記録し、『成長』を物語っているのです。

岸田眞代

おうみ未来塾アドバイザー
NPO 法人
パートナーシップ
サポートセンター
代表理事

しかし実際には、それを手に入れたグループも、そこまで到達できなかったグループもありましたね。それはそれで1つの大きな経験です。何がうまくいかなかった要因なのか。それを学べたことが、この『おうみ未来塾』で活動した成果なのです。

次はきっとそれを活かしましょう！活かせるはずですよ！人はいくつになっても成長できるのですから。

汗を流し、仲間と手を取り合って切磋琢磨してきた時間は、決してなくなりません。自信を持って、仲間ともに歩んでいきましょう！

私もその仲間の一人に入れておいてくださいね！また会いましょう！！

入塾式 2016年6月4日(土): 滋賀県立県民交流センター



おうみ未来塾 第14期 入塾式
平成28年6月4日

社会人になってずいぶんの入学?入塾式!
最初ちょっと緊張した顔がパーティー前の記念撮影頃全員笑顔!
さすが年の功か。

基礎実践コース



- ・第一回講座 2016年7月2日(土)
- ：彦根 NPO ポポハウス / 福井久美子さん
- ：地域プロデューサーの時代 / 北村塾長

福祉事業の場合、目的が経営事業に偏りがちな中、地域で暮らす市民感覚のアンテナを忘れず 地域に必要なことは何かという姿勢を崩さず、まず行動がありき。気がつく組織が後からついてきたことや親しみのある解りやすいネーミングなど感心した。

これからの市民活動は地域の問題を見つけ、自ら解決する市民力と行動を実践出来る事業力が地域プロデューサーとして重要。そして活動を広げてゆくネットワーク力を広げる。このぽぽハウスの歩みは 21世紀を担う活動そのものであり、これからの地域プロデューサーを目指す未来塾の手本にしてほしい・・・そんな力がつくのか?・・・希望と不安のある講座だった。

- ・第二回講座 2016年7月23日(土)-24日(日): 地域に学び地域を知る: 高島 マキノ高原、針江、岡崎昌之アドバイザー 前川正彦さん 三宅進さん

地域を知り、学び、活かす場所として高島はベストの地域だった。
地域にある「価値」に気づく視点を持つ。例えば「日本海と琵琶湖かの分水嶺、80kmのトレイル」や、針江生水の郷をブームに流されないため「観光地にしない」見識など、地域が好きでその資源を活かし持続させようとしている気概は大いに参考にしたい地域であった。



: 新しい地域課題と地域づくり / 岡崎昌之アドバイザー

地方の問題解決策は公と民の交わる所から生まれる。役所と民間の交わったところで地域の歴史を知りテーマをみつけキャラクターとする。又オリジナルの食でもてなすことがリピーターを生む。そしてこの活動に適度な利潤を生むシステムが加われば継続性を持たせることができる・・・これは大変な塾だ!

晴天に恵まれ塾生の楽しい交流ができた二日間ではあった。

基礎実践コース

- ・第三回講座 2016年8月6日(土): 生まれる、つながる、広がる: 東近江 あいとうエコプラザ
藤井絢子アドバイザー 平尾由里子さん

何ともエネルギーが湧く藤井アドバイザーが登場。



水俣問題で20株主で「生まれる」「つながる」「広がる」活動。守山チッソとの「琵琶湖を汚さない」活動。琵琶湖の生活排水の浄化活動。「抱きしめて琵琶湖」で26万2千人を集める。「菜の花エコ革命」で菜の花活動をチェルノブイリから北海道、淡路島、東北と種をまきエネルギーのリサイクル活動を広げる。天ぷら油を集めてバイオマスエネルギーを生み出す。

それにしてもバイオオイルで車が動かせるとは驚きだが天下のヤンマーがこのようさすぎる車は・・・残念。

自分達が暮らす街の発展は、自分たちがまちづくりに参画する意識をもって繋がっていくことが重要で流行のイベントでなく「日常の延長上にあるイベント」がきっかけで、まちづくりが出来るのだと感じた。



ひばり公園コトナリエ

- ・第四回講座 2016年10月23日(日): グループづくりに向けて: 淡海ネットワークセンター
中島みちるさん(おうみ未来塾12期生) 大山真さん(おうみ未来塾12期生)



いよいよ翌年から始まる創造実践コース。そろそろグループを作る方法を考えようと思っていた時期に、グループ活動で成果をあげられ、今も活躍されている先輩方の話を聞く機会を得た。

25人それぞれがやりたいことを持っている中、どのようにグループとしてまとまるかということ、入塾直後から丁寧に準備されていた。

私たち14期生は、未だグループになる姿が見えていないことに、不安を感じながらも自分たちはこの未来塾で何をしたいのか、卒塾後も地域とどのように関わりたいのか、グループを作る前に考えることができた。

- ・第五回講座 2016年11月26日(土): リーダーシップと合意形成: 滋賀県立県民交流センター
岸田真代アドバイザー



地域プロデューサーは市民活動のリーダー。

そのリーダーとして求められる能力や要件について、自己分析テストの結果を参照しながら講義を聞いた。

先頭立ってグイグイ引っ張っていただけがリーダーではない。

それぞれが自分のリーダーとしての姿を想像してみた。

また、個人と組織の関係について、組織の中で合意形成を図る方法についてお話を聞きグループづくりに向けてのヒントをいただいた。

サブ講座

- ・第一回 2016年9月24日(土): 子育て支援について考えてみよう: 守山市民交流センター
猪田誠さん(東近江市子ども未来部子ども家庭課主幹)
安達みのりさん(子育てサークルCheers Station代表)



子育てをしやすい環境を整えるために、市民として何が出来るのかということ学ぶ。行政としての取り組み、市民活動としての子育て支援のお話を聞き、「子育てをしている人は何を必要としているのか」「自分たちに何が出来るのか」ということを考えるグループワークを行った。

子育てをする人が社会とつながり、孤立しない仕組みが重要。

- ・第二回 2016年10月23日(日): 人口減少社会の地域づくり: 淡海ネットワークセンター
北村裕明塾長



人口減少の続く社会にあって、米原の大野木地区では高齢者支援を自治会にまかせずビジネスとして有償化支援をする会社「大野木長寿村まちづくり会社」を立ち上げ、高齢者の生活全般のサービスや空家のレンタル、都会の中学生の農業体験、大野木豊年太鼓踊りの保護、地域の人達のたまり場づくりなどを展開。全国の自治体から注目を集めている。

.....滋賀にそんな町があったとは、認識不足だった。

サブ講座

・第三回 2017年3月25日(土)：人口減少社会の地域づくり：大野木まちづくり会社に学ぶ 2 ：大野木まちづくり会社・西秋清志さん・清水清市さん

3月米原の大野木にバスでむかった。ほっこりした里山。ありがたいことに大きな囲炉裏と薪ストーブが迎えてくれた。・・・暖かい！

自然に人が集まる場ができていた。
お年寄りの脚として乗り馴れた自分の車を使った有料のサービス(1km/¥50)。
元気な高齢者が動けない高齢者の面倒を見る・・・聞いてみると特別な事は何も無いがここに持って来るのに2年間のミーティング。まず老人用喫茶店からスタート。
30年後の大野木のために何をするのかを考えながら活動されている姿に、自信が見えた。



塾生会

おうみ未来塾は、「塾生による主体的な運営」をモットーとしている。塾生が意見を出し合い、合意形成する場として塾生会がある。基礎実践コース本講座の他に「ぜひ！こんなことを学んでみたい！」というサブ講座の企画や、各講座での役割分担、懇親会の企画など塾生生活に関するありとあらゆることをこの塾生会で決める。
私たちは、大部分の時間をグループ活動に向けたグループ作りに費やしてきた。



グループ作りに向けて・・・第1回 11/6 こもれ日小田莉家(東近江市)
まだよそよそしさが垣間見える14期生。「まずはお互いを知り合う」ために「出会いのメリーゴーランド」と称した企画を発動！「聞き手」と「話し手」で二重の円を作り、5分おきに話し手が移動。
一巡したら交代を繰り返し、最後に聞き手グループと話し手グループでどんな話を聞くことができたか共有した。ドキドキしながら1対1で、ワイワイ脱線しながら複数で話す。それぞれに新たな発見があった。

この日が誕生日！サプライズの誕生日パーティで和みました。

グループ作りに向けて・・・第2回 11/19 塾生自宅(長浜市)

紅葉が見事な鶏足寺に立ち寄り、塾生宅にて「出会いのメリーゴーランドパート2」持ち寄りのお菓子や飲み物であふれかえったテーブルを囲んで、終始リラックス。



グループ作りに向けて・・・第3回 11/22 BRAH=art.(大津市)

夜なのでアルコール解禁しちゃいます!!「ほろ酔いnight」もちろんしっかりグループ活動に向けた話もしています。

グループ作りに向けて・・・総まとめ 12/17 12/25 1/15 淡海ネットワークセンター

いよいよ年明けから始まるグループ活動。ひとグループの人数を考慮して、3つのグループを作るというところまでは順調に決まった・・・しかし、それぞれのやりたいことを尊重しつつも合意形成をしてグループになるということは想像以上に難しい。



ドキドキハラハラしながらも、なんとか方向が見えたところで忘年会！
およそ半年間の基礎実践コース、みなさんお疲れさまでした。いよいよ地域プロデューサーとしての学びが本格化します。

番外編 みらい06+U 結成されたがすぐ凍結。

発表会

2017年2月11日(日) テーマ発表会：淡海ネットワークセンター



タイムキーパー



こたかり倶楽部のプレゼン。
慣れないプレゼンに四苦八苦。



もりもりもりやまのプレゼン。

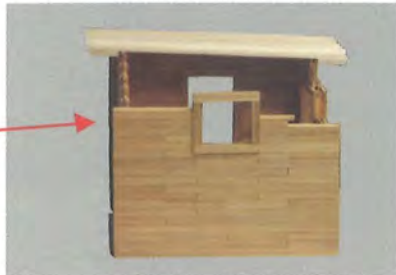


プレゼンの後アドバイザーからの批評
真剣に耳を傾けメモをとる WOOD-BB。

2017年6月24日(土) 中間報告会：淡海ネットワークセンター



WOOD-BB 本き 高時の本気が見えたプレゼン！



一気に注目を集めた正確なミニチュア。



地元とのコミュニケーションは？
痛い所をつかれるこたかり倶楽部。



もりもりもりやまはそろいのエプロンで登場。



アドバイザーの目がひかる！

2017年10月12日(水)・10/17(火) 臨時報告会：滋賀大学大津サテライトプラザ

最終成果発表前のサゼッションが大津駅前の滋賀大サテライトプラザでおこなわれた。

結果は・・・次のページからご覧下さい。➤

2017年12月9日(土)・成果発表会・卒塾式：淡海ネットワークセンター



おうみ未来塾第14期成果発表会・卒塾式

2017年12月9日(土) 滋賀県立県民交流センター

19/25 名が卒塾した。途中でベビーも誕生し、もう歩くようになった！



森を活かして地域が生きる・・・
そんな理想に本きで取り組む

Produced by



活動目標:地域が自立できるような、足腰の強い地域にする。

テーマ:「理念ある利益」「利益ある理念」

おうみ未来塾の講義ではまちづくりの活動は無償であると継続が困難であることを学びました。卒塾後も地域にとって持続可能な取り組みとなるよう、チームのテーマとして掲げました。



リーダー:大将
池田金夫(長浜市)
長浜市地域活力プランナー
大臣登録155947一級建築士
好きな言葉「一生懸命」



サブリーダー:達ちゃん
北川達也(大津市)
仰木地区活性化委員
滋賀県地球温暖化防止
活動推進員
自称トレイルランナー



渉外:たなっち
田中啓介(甲賀市)
甲賀市地域おこし協力隊
甲賀流忍術研究会
花と蜂と油と蜜と



会計:おたけさん
武村純一(宇治市)
京都市職員(電気技術職)
ビール大好き!!
“変人”の公務員を目指して
います

09



編集委員:つよぼん
谷剛(大津市)
NPO法人理事
喫茶店マスター
瀬田に秘密基地を建設中



顧問:おっかさん
岡義子(長浜市)
去年までは薬剤師、今は画家
趣味は登山と旅行防災ボラン
ティアひでよし隊隊員

MUSUBI

WOOD-BBにとっての結びはチームワーク

それぞれの思い描く未来のため、おうみ未来塾に入塾した6人。
地域課題に向き合い、共に活動する中で、改めて仲間の存在の大切さを実感しました。
未来塾ではたくさんの学びを得ることができましたが、私たちにとって最大の収穫は、
思いをひとつに協力し合える素晴らしい仲間に出会えたことでした。



活動拠点と地域課題

びわ湖の北側、長浜市木之本町高時地区を活動拠点とした。人口1200人、世帯数410戸、高齢化率35%の少子高齢過疎化の進む中山間地域である。古くから林業が盛んな地域で、製材所が2軒、大工の作業場が数件ある。



地域の課題

雇用の場がないので若者が定住せず、Uターンが期待できない。

少子高齢化の進む中で地域に活気がなくなりつつある。

取り組みのヒント

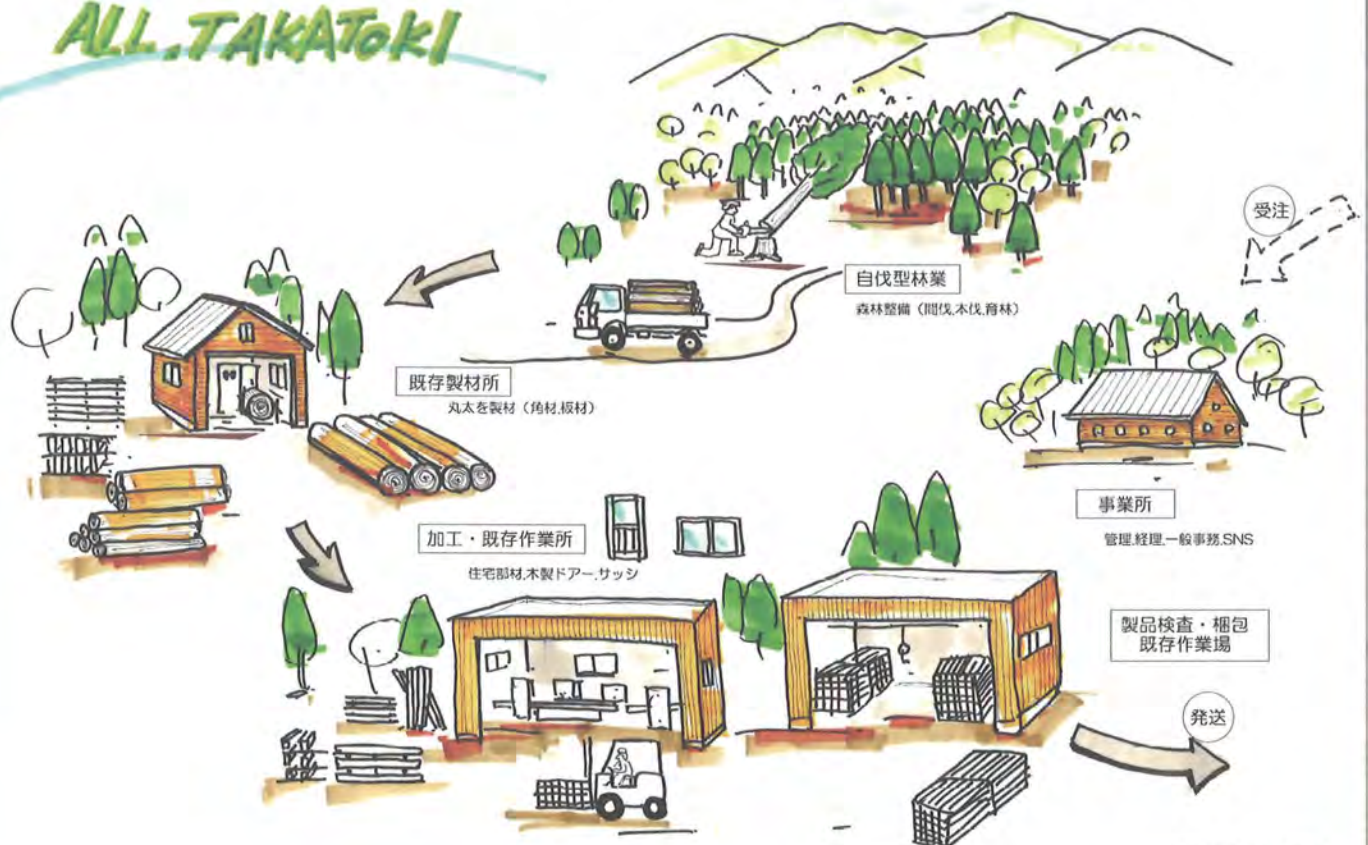
2016年に発生した熊本地震の際、支援住宅を建てに行った大工さんの話。倒壊した家屋の横に6帖ほどの支援住宅を二棟建ててきたが、とても感謝された。必要としている人はたくさんいるが、資材も人手も不足するので、充分に行き届いていない。

わざわざ大工が行って建てなくても、そこにいる人で建てられるのであれば、より多くの人の方が助かるはず…。被災した人も元気な人が多いので、電動工具も使わず木槌だけで建てられるものがあればいいのではないかな？

森林整備と地域の活性化

今現在、放棄状態にある森林に、自伐隊を形成し森林整備を行う。そこから出る、主に杉材を地元の製材所に持ち込み、丸太から角材や板材に製材する。それを地元の大工作業所に持ち込み二次製品を製作し、販売する。販売により得た対価を、森林整備費と製材費、加工費、運搬費や保証費等に充てることにより、地域内における雇用を生み出し、活性化に繋げる。全て高時地域で行う「ALL.TAKATOKI」小商いの形成を提案した。

ALL.TAKATOKI



作成する加工品

誰でも簡単に建てられる小規模建物

1メートルの長さにしたピースを積み上げていく工法で作る建物

12センチの角材で1メートルの長さのピースを作り、それを積み上げていく工法で、まだ誰もやっていない。大きさを1メートルに設定した理由は、1人で組み上げられる大きさであること、森林から搬出する木材の先まで無駄なく使い、森の資源を最大限活用するため。



制作以外の取り組み

先行事例の視察

森林環境の改善に取り組む、東近江市永源寺森林組合にお話を聞くことができた。



視察からの学び

- 森林は財産である → 次の世代のことを考えた利用が必要である
- 森林は整備が必要である → 正しく整備する事によって、水源かん養機能、山地災害の防止機能が高まる
- 木材を加工する事で価値が高められる → 安易な燃料利用に走らず、まずは家具や木工品などへの利用を考えるべき

高時の山を現地視察



杉やヒノキなどの針葉樹林が広がる。植林から50年以上経過して、まさに“切り時”を迎えている。

間伐等の手入れが十分になされていないと、発育に影響が出る。また、間伐されていない山は、下草が生えず、大雨による土砂災害の危険性が高まる。



十分な間伐がなされるためには、間伐材の利用方法を考え、木材として山から運び出されるようにしなければならない。

森林整備・権利関係

商標・特許の検討

7月24日、11月20日 知的財産の個別相談会に参加。商標登録、意匠登録を検討中

助成金の相談

8月30日 滋賀県の森林政策課に相談。本格的な活動はこれから

森林整備

高時に講師を招き 地域のひとが参加

チェーンソーと伐倒の研修



林道作りの研修



12

実現に向けての歩み

地域の人を
巻き込みたい

目に見える
実績作り!!

「ワクワク」
させるには?

1/10サイズの模型を作成



地域に新たな賛同者を得る

「最高の作業場所」と「制作するための機材」を使わせていただけることに…
→6帖サイズの小屋の制作に着手!



夏の暑さと木屑に苦戦しながら、カンナがけ→裁断→ほぞ切り→防腐剤塗布の工程に取り組む。



住居として利用できる強度を得るために接続部分には、特殊な加工を必要とする。
模型の制作や間伐材ピースの加工に際して、地元の大工さんに多大なる支援をいただいた。
職人の経験と技術もまた地域の宝である。

二次製品の名前が決まる

たくさんの方にご協力いただき、ついに6帖
タイプ的小屋が完成した。
この小屋の部品となる一つのピースについて
“木のブロックで自分で建てる家”という意味で
WOOD-Build Block(ウッドビルドブロック)

WOOD-BB

と名付けた。



WOOD-BBハウスの組み立て

完成したWOOD-BBハウス試作第1号。これから製品化に向けて細かな改良を重ねていく必要がある。居住性モニターの為、甲賀市で地域おこし協力隊として活動しているたなっちが、ひまわり油の加工所として使用することになった。組み立てに際して、各方面にプレスリリースをおこない、テレビ局、新聞社の取材を受けた。



2トントラックに全てのWOOD-BBを積み込み、いざ出発!!
建物の基礎となるコンクリートブロックを並べ、床部分を支えるWOOD-BBを組む。



床板をはめ込み、建物の壁となるWOOD-BBを積み上げていく。



ある程度積みあがってきたところで、入り口部分の枠部分を組み込む。
隙間ができないように、木槌でたたきながら積み上げていく。



試作第1号では、十分な耐震強度を得るため、補助的に鉄筋を使用している。



窓枠と窓を設置し、さらに積み上げていく。窓を割らないように様子を見ながら、木槌で慎重にたたく。屋根パーツを乗せ、入り口にドアを設置して完成。



2017年11月25日
中日新聞



共同研究について

住居としての安全性を確認するため、滋賀県立大学環境科学部の高田豊文教授と共同研究をおこなった。WOOD-BBハウスの壁一枚分を試験場に持ち込み、地震を想定した水平力を加えた結果、**良好な耐震性能を持つ**と評価を受けた。



小木片の積上げ式工法による小規模建物の耐震評価

滋賀県立大学環境科学部 高田豊文

1. はじめに

本研究では、高時地区地域づくり協議会が開発・製作した小木片の積上げ式工法による小規模建物の実大モデルから、壁試験体を取り出し、水平加力試験(面内せん断試験)を通して、その力学性能を評価した。なお、本実験は、高時地区地域づくり協議会と滋賀県立大学・高田研究室が共同で実施したものである。

2. 小木片の積上げ式工法住宅と試験体

高時地区地域づくり協議会では、簡易な木造仮設住宅の建設を目的として、小木片の積上げ式工法による小規模建物を開発し、その実大モデルを製作した(図1)。実大モデルは、110度で長さ約900mmの小木片(スギ)を積層して製作されており、各小木片は、数個おきに木ダボで接合されている。この実大モデル建物から、幅900mm、高さ2410mm(土台-桁芯々間)の壁面(図1赤枠内)を取

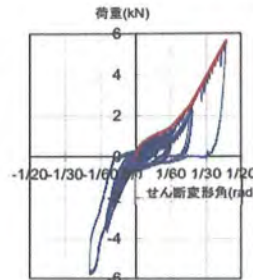
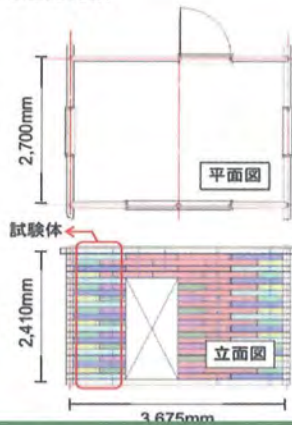


図3 荷重-せん断変形角関係 (壁長:900mm)

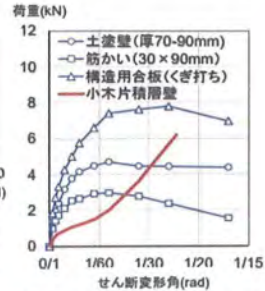


図4 一般的な耐力要素との比較 (壁長:1,000mm)



(a) 小木片間のずれ (b) 壁下部の小木片間の開き
図5 実験中の試験体の様子

WOOD-BBハウスのコスト

WOOD-BBの小商いでは地域に若者がI・Uターンして家族を養っていけるように、正当な対価を支払える仕組みづくりを目指したいと考えています。現時点の参考金額としてコスト試算を行いました。



WOOD-BBハウス一棟 価格設定

床面積 10㎡ (3坪)
400ピース
木材必要本数 30本

| | | |
|----------------|----------|-------------|
| 木材伐倒・搬出費 | 200,000円 | |
| 製材費 | 160,000円 | |
| 運搬費 | 40,000円 | |
| 計 | | ¥400,000円 |
| 加工費 | 720,000円 | |
| その他加工費 | 520,000円 | |
| 建具費 | 250,000円 | |
| 屋根板金 | 140,000円 | |
| 束石、ボルト 金物一式 | 50,000円 | |
| 塗装費一式 | 50,000円 | |
| 電力、機械器具損料 | 100,000円 | |
| 計 | | ¥1,830,000円 |
| 諸経費 11% | 270,000円 | |
| 合計 | | ¥2,500,000円 |



木材伐倒・搬出費 200,000円

材高14.00m 束口φ180程度 (12.5cm角×L4.00m×3本)
必要本数 30本
・自伐林業型伐倒、たま切、搬出人工数 10人工
・労務費(特殊作業員並) 20,000円



加工費 720,000円

12.5cm角×L4.00m×90本
・L1/2カット、プレーナー加工 5人工
・溝切加工 15人工
・カット、ほぞ切加工 15人工
・穴明け加工 10人工
計 45人工
・労務費(普通作業員並) 16,000円



チームワークで夢を形にWOOD-BB

森林整備から発想した新しい工法の家。完成まで不安との戦いでした。失敗していたかもしれません。しかし、ここまでできたことで、色んな事が実証できました。構造も予想以上の結果となり、誰でもどこでも木槌一つで、一日足らずで建てられることも確信が持てました。また、修正点もたくさんみつかりました。我々の目標は地域に新しい循環の仕組みをつくり、それで地域が活性化することです。その目標に向けて、家づくりの成功は大きな一歩、大きな可能性が生まれました。我々WOOD-BBの活動はまだ続きます。



ご協力いただいた方々 ありがとうございます

滋賀県立大学環境科学部 高田豊文教授／株式会社オクムラ(長浜市)／地域おこし協力隊(甲賀市)／高時地域づくり協議会

今は昔・150年



150年たった民家が有る。
江戸時代、小田苧村の庄屋「小林吟右衛門」は
両替商「丁吟」を興し彦根藩を支えた。その流れをくむ分家が、
江戸末期の建物を明治の初め、現在の小田苧町に移築。
但しここ50年は空家であった。
これを活用するため『こもれ日・小田苧家』と命名。
「こもれ日」とは空家の中に初めて入った時、
古い雨戸の隙間や節穴から日ざしが入り踊っていた様を現している。

小田苧家でタイムスリップ

瓦屋根のついた土塀に囲まれ約300坪におよぶ敷地。
五連の竈と長州風呂のある母屋、二つの蔵と納屋、
建物は総て二階建て、井戸そして石灯籠のある庭。
多数の部屋を持つゆとりの伝統家屋。
現在の平均的な住宅で育った者にとっては啞然とするお屋敷なのです。



座敷から続く蔵や二階に上がる箱階段、五連の竈など時代劇のシーンにタイムスリップした空間！

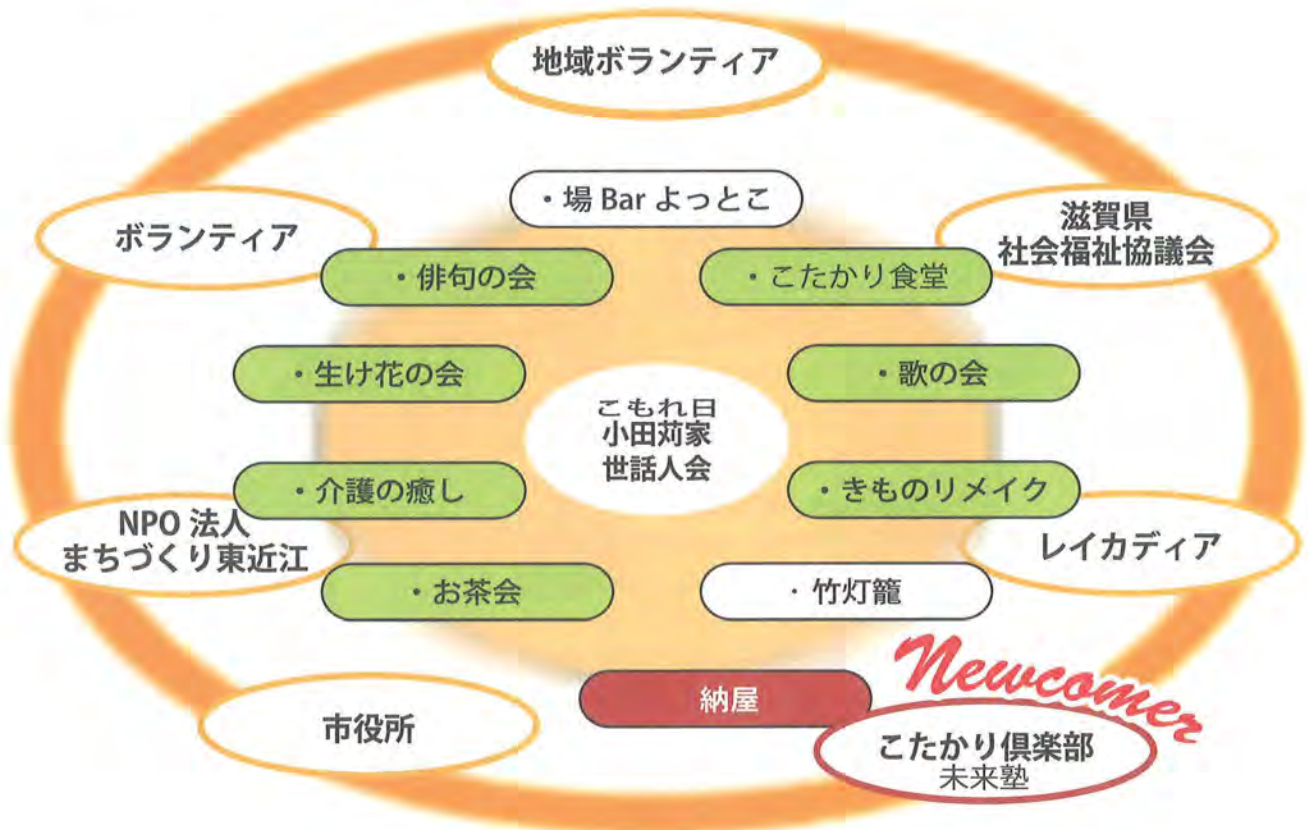
位置／琵琶湖と永源寺の間あたり

場所は東近江市小田苧町352。大風揚げで有名な八日市の北東、愛知川を越えた所にある。
近江鉄道八日市駅からちよこつとバス僧坊行き小田苧下車徒歩3分にある。



こもれ日小田菟家構成図

空家になっていたこのお屋敷を、何とか活かさないか？ということで、手を入れ始めて3年。
小田菟家全体は中心の世話人会（5名）が運営し
現在は母屋の座敷を使ったサロン活動を行っています。
そして主に外部の清掃や内部のメンテナンスをするサポート隊がその外部をかためている。
そのグループに未来塾の「こたかり倶楽部」が加えられた！



こたかり倶楽部メンバー自己紹介



井田 久美子
・70 歳の手前。
東近江の在。前職は介護の管理者をしていました。又、二十歳よりボランティアとして体の不自由な人達と楽しくヘルプをして現在も継続中。今は子供からお年寄りの人達が気楽に集う場を作っています。



井上博之 ・77 歳
栗東在住
定年後、県内で温暖化防止・環境保全のため活動中。里山では子供達に自然体験の場を提供している。これらの活動と趣味である木工、竹細工の経験をこたかり倶楽部の活動に生かしたい。



中林賢一 ・49 歳
甲賀在住。DB スペシャリスト
・理学博士。現在 IT ベンチャーを起業し甲賀市の地域課題の解決に IT を活用すべく、未来塾では資金調達と人のネットワーク作り方を勉強している。



竹間義昭 ・74 歳
守山在住。メンズアパレル出身。小田菟家に興味を持ち記録担当で参加。スケッチで小田菟家をアピールしたいと考えているが、まず「茶店+」を完成形にしたいと奮闘するも空回りを認識中。



千種利明 63 歳
長浜在住。市の公務員から虎姫公民館館長を務め、今は東浅井商工会に勤める。小田菟家との関わりは、今後増えるであろう古民家の空家対策の経験として活かしていきたいと考えています。

こたかり倶楽部納屋をまかされる！

サロン活動が地域の人々に認められ集いの「場」として機能していますが2016年6月世話人の一人がよりレベルアップを計るため未来塾に入塾。

ここで小田蒔家に興味を持った塾生がグループを作り「こたかり倶楽部」として活動することが決まった。当然先行している小田蒔家の活動を妨げることなく、より小田蒔家を元気で面白くすること。又、参加することで古民家の活性を実践で学ぶことも目的の一つです。

そして

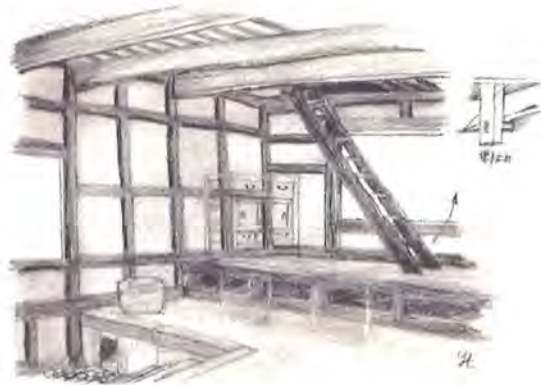
正門をくぐってすぐ右の納屋を

「こたかり倶楽部」にまかしてみようということになった！



此。

50年もの間放置され荒れるにまかせた納屋。漆喰壁は崩れ、錆の浮いたトタン外壁は窓が抜けている。



中は一階、二階共ガラクタの山でとんでもない量のゴミ屋敷の体。おまけに川戸が切ってある。しかし立派な梁や弁柄塗装の天井と柱。壁は漆喰仕上げ。と内装は納屋らしくない！これは活かせる！

20

こたかり倶楽部の活動

2月のテーマ発表会后正式にスタートした「こたかり倶楽部」のこれまでの活動

- | | |
|----------------------------------|--------------------------------|
| 01・参考地見学 長浜、京都、大津、近江八幡、室生等 | 07・外壁、庭整備 プロの大工さんやボランティアに依頼 |
| 02・不要品廃棄 50年のゴミホコリもにボランティアで解消 | 08・関係団体グループとの交流 |
| 03・清掃 未だに続く | 09・地域交流 小学生の小田蒔家見学は楽しかった |
| 04・内装作業 いよいよセンスをとわれる作業 | 10・サロンへの参加 |
| 05・小田蒔家サロン・イベント参加 | 11・行政関係交流 |
| 06・ボランティア募集 | 今後の課題 |
| | 12・什器調達・メニュー考案・スタッフ |
| | 13・資金調達 |
| | 14・+の資料収集 |

納屋を「茶店・+」に！

母屋は何かの目的を持った人達の集いの場だが、納屋は少し範囲を広げ不特定多数の人々が気楽にゆっくり過ごせる所として〔茶店〕に改装する案が生まれた。それに何かしら面白いものがプラスできればと考えばギナーズアーティストの発表の場をプラスすることを考えた。

・茶店



江戸時代の街道にある休憩所のイメージ

・B?ギャラリー



Biginnerrrs Gallery



参考現地見学

坐外堂



長浜 / 青山さん

夢雲



室生 / 山脇さん

どちらも築 300 年を超す古民家を改装。

坐外堂は『変化自在、使い方自由』のレンタルスペース。

夢雲は山脇さんの感性に合った作家のコレクションギャラリーだが、どちらも古民家のよさを活かしたセンスと手入れの良さは、古民家改装の目標となる完成度をもっている。

佐々木文具店



米原 / 岡田さん

古い床屋を借りて好きな文具や雑貨、もんぺ、野菜など、ランチも出て来る地域の人の集まり場所として不定期に開店している面白い店。等身大で無理をせず好きなモノを展開されている所は見習いたい。

風工房



京都 / 斎藤さん

天然染料を使った手染めの工房を開設。様々なアーティストの展示も行なう。自身も全国を飛び回り野菜染めのイベントを展開中。ナチュラル感を崩さない姿勢は賞賛モノ。

風曜日

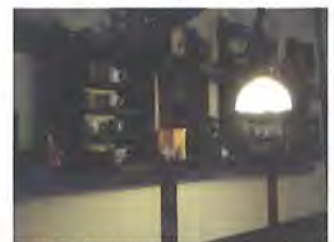


大津 / 椿野さん

東近江の蔵を改装したカフェ。

冬は3畳程のスペースでカウンターと6-7人座れる所で営業。夏は隣の蔵がプラスされる。廃材を使った家具や雑貨や古道具が感性の統一感を演出。センスの統一感が重要。

茶くら



東近江 / 木村さん

仰木の普通の民家でギャラリーを展開。

アート作品とパンや焼き菓子、雑貨、アンティークな釘なども並べている。日常的な生活の中でさりげなくアートを展開、構えない気分が大切。

納屋の2階

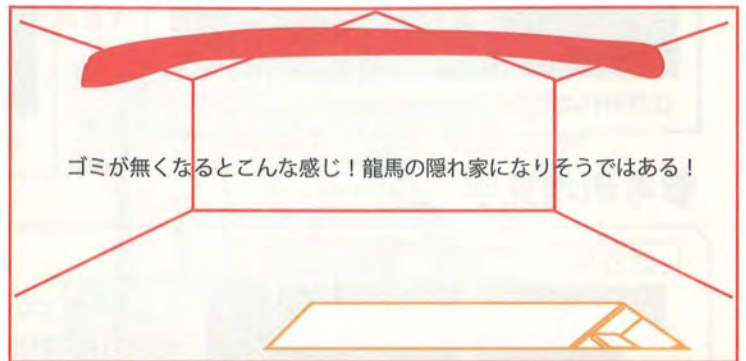


2階はまったく手つかず。山のような藁束、笠、お宝？箱、畳、50年分のホコリ。
天井は低め。太い梁。うまく使うと面白い空間になる



50年前の新しい雑巾がでてきた。

重くて怪しいこれは？なんだ！



22



天井は木材。障子、トタン角材、板など建具がストックされている。



やっと中央の藁束の山を下に降ろす。



5月の連休中。2F がずいぶんスッキリしてきた。
ピカピカ！



昔の農機具、綺麗にして飾る。



五連の竈に火を入れた。恐る恐る煙突から一番遠い所からスタート。煙が通らず家中煙だらけになる。最初は煙突に近い所から始めるのが鉄則であった！

1階の作業



ふとんが山積み。壁に掛けてある農具等はそのまま活かしたい。漆喰の壁と弁柄柱を活かせるプラス案を考えよう！



1階は山積みの布団はかたずいたがまだまだ・・・
茶筆筒の下だけ、木臼、石臼、漬物石、火鉢、篩、岡持ち、脚立
時代物の小道具が残った。光らせよう！



いくら掃除しても出るホコリ・・・



「川戸」はどうするか検討中。
田植えの時期、田んぼの水が流れ込んで来る。
この泥はどれほどの厚みなのか？
ほりだしてストーブゾーンにして暖まるうか！
窓がヌケているのでここに煙突を出そう。



窓は？

室内も大きな炭俵をかたずけ
やっと何もなくなった。
窓からのグリーンが気分よし。



この納屋には1階に3つの窓が開いているが窓は全部完璧にヌケていた。
やっと、窓枠の木材を池田さんから提供してもらい、枠を木澤さんに
組んでいただき窓枠が完成した。

外回り



納屋をまかされた時、
正直どこから始めようか戸惑いがあった。
西側の壁は素人では無理だった……



世話人グループの大工さんが
焼板で修理してくれた！
感謝！感謝！感謝！



次は南のトタンとヌケた窓だ。

24



夏場はアツと言う間に葛や雑草が庭を覆い尽くす。蚊と汗で大変！

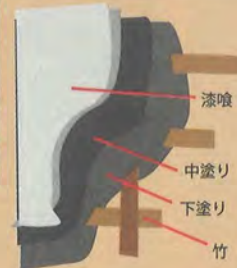
窓からほおり出したゴミの山。2階の棚を洗う。



北の角の柱の下が虫食いで浮いていた。おまけに壁が崩れ大きな穴が！
柱を切り、丸太をかまし、壁を落としコンパネで裏表2枚で塞いだ。
電動ノコで助けてくれた小杉さんに感謝！
コンパネに弁柄を塗って完成。



中塗りは下塗りと同じ
土でより肌理の細かい
ものを使う。
左官の中村さん！
ありがとうございました



土壁はコンクリートより
長持ちし呼吸している！
落とした壁土を再度
使うことでなじみが
よくなるとのこと。

・ 未完成を楽しむ場所 ・

納屋でありながら弁柄塗りの柱と漆喰壁の室内仕様！これを活かして楽しみながら、未完成を完成に近づけることが目標。暖かく、居心地の良い、面白い空間、窓を入れ、ストーブを手配し、灯りを入れ、飲み物とお菓子ぐらいを出せる台所と座布団でくつろげる空間を提供・・・・・・・・・・初めてなのになにか懐かしさのある所にタイムスリップ出来る場所にできればと考えています・・・・・・・・・・



屋内案

屋内は未だ完成の域には達していない。

一つに、いくら履いても出て来るホコリに悩まされている。しかし、古い木白に2階の棚板をトップにのせたテーブルや廃業したカフェの椅子・・・・

等が揃ってきた。

窓枠も入った。

実験

イメージを具体的にするため江戸錦風を借りてきて風の展示をやってみた。決してBクラスではない本物！みごとに馴染んでいた。



外壁案

50年間放置されていた納屋を茶店に生まれ変わらせるのに外観は重要なポイントになる。

西側は6月に焼き板のカバーで見違えるようになった。

南側がトタン仕様の壁になっている。

どんな外壁にするか！



ガーデニング案

庭の真ん中に辛夷の大きな木がある。

これを中心にガーデニングが出来るのではないか！

ハーブか季節の花でも植えてナチュラルガーデンが生まれるか？



エントランス案

古い大きなお屋敷なので、

漬物石がたくさんある。

これをエントランスの敷石に使う案を

実行中ではあるが、腰にダメージのある

ジジイ連にはまだまだ時間のかかる作業では！



- レールソケット
- ペーパーシェード
- 茶筆筒
- 竹灯籠
- キャンドル
- 火鉢

- 井上さん力作のテーブル
- 棚
- 川戸のストーブ
- 昭和の流し
- 水瓶

こたかり倶楽部
活動日記-9

・ 未完成を楽しむ場所-2 ・

茶店をより面白くする工夫がレンタルスペース：B-Gallery です。B:Beginner であり B:est でもあります。具体的に進めてはいませんが面白いアイデアを考えています。



野染め





・ 京都斎藤洋さんの野染め

公園に反物を広げ天然染料で皆が自由に染め上げていきます。子供も大人も全員笑顔です。




一箱本屋

家に眠っている本をワンボックスに詰めて処分します。思いがけない本が手に入るかもしれません。





江戸錦風展覧

「揚がらなければ凧じゃネー！」江戸錦風の匠の言葉です。飾るだけでなく揚げるための凧展です。

26



**B-Gallery
Beginners Gallery**

ビギナーズアーティストの発表の場を提供





2階を使って竹灯籠展





Ohkini Plate

ボランティアで手伝った方の名前を千社札にする。

賛同し協力していただいた人達の証として千社札を考えています。





こたかり古墳の発掘

実は小田川家の場所は、その昔古墳が有った場所であったと云う噂が絶えない。これを検証することがこれからの最大の目標にするべく、発掘が始められようとしている。これに参加する発掘隊が近々組織されようとしている。

未確認

笑犬

Slipped Sheet Bend

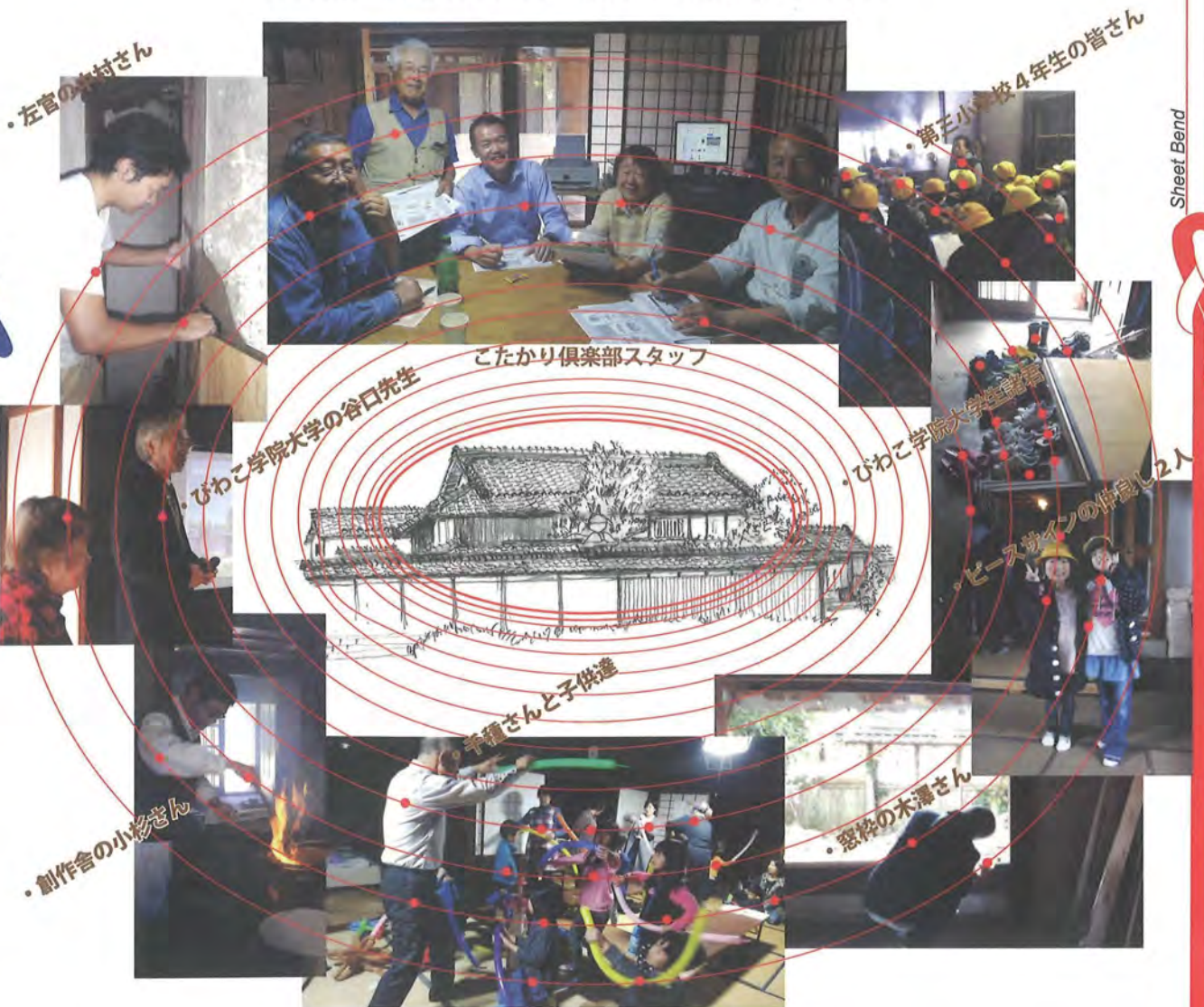
こたかり倶楽部の結び

世の中、様々な結びつきでなりたっている。

人と人・人と自然・古いものと新しいもの・山と川・街と里・光と陰
個と個が結びつき、線となり、面が生まれ、集いとなって、和が生まれる。

50年間空家だった小田刈家に
新しい息吹を与える活動が3年前からスタート。
地域の集いの活動拠点になり、楽しく元気な雰囲気発信。
その活動の輪の中に「こたかり倶楽部」を加えていただき
未来塾と小田刈家との「結び」が始まりました。

Double Fishermens Knot



Sheet Bend



- ・焼板壁の青西さん・地協の綾さん・地域コーディネーターの黄地さん・建築士の玄正さん
- ・未来塾の池田さん・武村さん・塾生の皆さん・ピアザ淡海の方々・ありがとう！
- ・これからもよろしく！

Reef Nnot



もりもりもりやま活動報告

～地域の居場所づくりをめざして～





私たちは、「食」をテーマに活動しよう！若い世代が増えてきている「守山地域」で活動しよう！ということで、もりもりもりやまというグループを結成しました。

このグループ名は「守山」のもりもり、「ごはんをいっぱい食べる」のもりもり、「盛り上げたい」のもりもり、「盛りだくさん」のもりもり、と私たちの思いが「もりもり」入り込んだグループ名です。

グループの顔ぶれは…

集まったメンバーの顔ぶれは…野菜ソムリエさん（さすが食のグループ）、守山
居住者さん（教えてもらった守山事情に、へえ〜）、地域で広く活動する議員さん
（守山への熱い思い、たくさん聞かせていただきました）、色々な地域の知り合い
もちさん（色々な人がどんどん繋がっていき、びっくり）、若者（好奇心旺盛）な
ど、年代も職業もバックグラウンドも様々なメンバー。



リーダー
中 眞季
公務員



サブリーダー
吉田 史子
公務員



サブリーダー
辻川 育子
野菜ソムリエ



渉外
福井 寿美子
市議会議員



編集委員
佐々木 翔
団体職員



木田 桃子
竜王町地域おこし協力隊



会計
細居 たみ子
野菜ソムリエ



中嶋 稔
自治振興会役員

いざ、地域へ入って行こう！

そして、「まずは一緒に何かの食作り体験をすることで、私たちが地域へ入って
行こう！」ということで活動をはじめました。

「食べることの楽しさ」をテーマに！

地域の方に、まず自分たちの存在を認知していただくために、食を「知る」こと（食材・作り方・食べる楽しさを知る）をテーマとしたイベントの開催を計画しました。

また、より多くの方に私たちの活動を知っていただき、参加者（仲間）を増やしたいという思いから、webサイト・FBページを開設しました。

イベントの場所として、私たちがターゲットとしていた子育て世帯の方を中心に多くの方が集まる商業施設（スーパーマーケット）の隣にあり、キッチンスペースもある「コープもりやま店・コミュニティスペース」を拠点と決定。「『食』を使って誰もが笑顔になる場所を作る」を目標に活動をしました。



イベントを通して伝えたかったこと！そして…

五感を使って作る経験、一つのテーブルをみんなで囲んで食事をする楽しさを感じることで、ただ食べるだけではない食の大切さを体感してもらいました。

自然な会話の中で地域とのかかわりについて困っていると感じていることをヒアリングし、その中から地域の課題を自分たちの仮説と照らしながら確認し今後へとつなげていこうと考えました。

しかし、この拠点での活動は収容人数も少なく、十分な関わりが出来るのか、そして深く地域に入っていけるのかという不安を感じました。

気軽な立ち寄り場「ふらっと」との出会い

コープもりやまでの活動を経て、もっと地域に入った活動をしなればとグループで意見が出ました。そんな時、泉町自治会が厚生労働省所管の地域介護・福祉空間整備等施設整備交付金の採択を受けて、泉町自治会館のとなりに気軽な「立ち寄り場・ふらっと」を開設しました。

自治会が中心となって、この居場所の運営を進める中でどうすべきかとの話を町民でもあるメンバーの福井が聞き、是非、食を通して地域の皆さんと繋がり、地域課題を抽出できないかと、提案させて頂きました。



「ふらっと」での初めての活動

こうして「ふらっと」を会場に使わせていただけることになり、8月19日(土)にクッキーづくりのイベントを開催しました。泉町自治会の健康推進員さんにはカレーをご準備いただき、コラボ企画という形で開催させていただきました。また、町内会のチラシも回覧で回していただくなど、色々ご協力をいただきました。

当日は6名の方に来ていただきましたが、メインの対象者である子育て世代は1組だけで、クッキーづくりもこの1組だけの参加となり、課題が多く残る会になりました。



「ふらっと」での2回目のイベント実施。しかし…

暗闇の中を手探りで進むような思いを抱いたまま、9月30日(土)に「ふらっと」で2回目のイベントとなる、蒸しパンづくりを行いました。今回もチラシの回覧や、近隣へのポスティングなどもしましたが、参加者は4名と少なく、ほとんどがいつも「ふらっと」の運営などでお世話になっている方でした。



もりもり蒸しパン

<材料>

薄力粉…200g 砂糖…100g
BP …小さじ2 牛乳…190ml
…小さじ2 塩 …小さじ1

<作り方>

1. 蒸し器を加熱しておく。
2. 材料をすべてボールに入れ混ぜる。
3. カップに入れ、トッピングをのせる。
4. 蒸し器に並べて強火で10分蒸す。
5. みんなで美味しく食べる♡

「ふらっと」での活動の中で気づいたこと！

8月と9月のイベント開催をして、私たちがターゲット層にしている子育て世代の方には想いが届いていないことがわかりました。「食」というテーマに興味がないのか、場所が行きづらいのかは結局分からないまま。。

2回のイベントを実施して分かったことは、地域の役員さんや、健康推進員さんは地域で長年、料理を提供されていてレベルが高く、手際もよいということ。

もりもりもりやまは、今までメンバーに野菜ソムリエがいることから、食を通して地域との繋がりを作りたいと活動してきましたが、「ふらっと」との出会いにより食にこだわらず、「ふらっと」が必要としていることを話し合わせていただく中で、何ができるのか?ということを探りました。

地域みなさんが使う手作りスリッパをつくろう！

自治会みなさんとコミュニケーションを深める中で、春にオープンを迎えたばかりの「ふらっと」はまだ冬を越したことがなく、スリッパが用意できておらず、困っているということがわかりました。そこでメンバーの木田が羊毛フェルトのスリッパづくり教室を行い、ふらっとで履くスリッパをみんなでこしらえることになりました。11月19日(土)に15名の方にご参加いただき、6足のスリッパが完成しました。ご年配の方には思っていた以上に大変な作業でしたが、はじめての体験と若者との交流を皆さんとても喜んでいただけました。



34

活動を振り返って…

スリッパづくりを終えたところで、おうみ未来塾としての活動は一区切りとなりました。これまでの活動の中で、「地域の居場所づくり」という目標を十分に達成したとは言えませんが、地域コミュニティの拠点としてこれから動き始める「ふらっと」での活動に、私たちもりもりりやまが関わることで、地域の中に「新しいアイデア」を生み出すことができました。

もりもりもりやまの結び

迷って悩んで立ち止まって。

ちょっと進んでまた、迷って。

このメンバーで活動できたこと、皆さんに出会えたこと。

全部が学びでした。

私たちは誰かの笑顔をもりもりにできただろうか？

少しでも誰かの日々のパワーの源に慣れていたらうれしいな！

誰かと一緒に笑いあえる幸せを大切に、

これからも元気にもりもり頑張るぞ！

お世話になった皆さんありがとう！

そしてこれからもよろしく！



もりもりもりやま一同より





「こんにちは!三日月です」 県知事登場! 未来塾OBを含めたミーティングは初めての試み。

編集舞台裏

報告書編集委員をいわれ、これまでの報告書をみせてもらい3人で相談。まず見て興味を持つ所からスタート。全ページカラーにしたら・・・予算は・・・写真は・・・コメントは・・・締切は・・・レイアウトは・・・ナジジョ・・・?メンバーのチームワーク&スキルに助けられ 完成!.....結果は?!

Take-y

講義の資料やフィールドワークの写真を読み返しなが、改めて振り返る一年半。成果報告書作成という大役をいただいた私たちは、未来塾での学びを総復習できましたね(ポジティブ)。この報告書を手にとられた方々に「未来塾っておもしろそうやな」と思っていただければ幸いです。

TANI

12月9日に無事卒塾を果たした後、僕たち編集委員の未来塾第二幕とも言える、この報告書制作がスタートしました。これまでの活動に想いを馳せながら、この報告書を手にとる方々の顔を思い浮かべながら、なんとか完成させることができました。

制作にあたって、編集の竹間さん、全体のスケジュール調整をした谷さんには感謝です。

そしてこれまで共に学びを重ねてきた14期メンバーを初め、お世話になった全ての皆様に感謝申し上げます。これでやっと本当の卒塾です!(笑)

S.S

淡海ネットワークセンター (公益財団法人 淡海文化振興財団)

〒520-0801 滋賀県大津市におの浜1-1-20 (ピアザ淡海2階)

TEL. 077-524-8440 FAX 077-524-8442 E-MAIL office@ohmi-net.com



Ohmi Network Center
淡海ネットワークセンター
公益財団法人 淡海文化振興財団